



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより11月号

令和5年10月31日

横浜市立青木小学校

青木のまちの法被を翻して― 地域の皆様に支えていただいたソーラン節 ―

校長 後明 好美

10月14日、好天に恵まれ、スポーツフェスティバルを開催することができました。本年度は4年ぶりに全校での土曜開催をすることができ、青木らしさが戻りつつあることを実感できた一日となりました。いずれの競技・演技も、それぞれの学年らしさを発揮する子どもの姿が見られました。プロジェクトの子どもたちも、久々の全校土曜開催にわからないことも多くあったでしょうが、青木の子らしく、自分の名を呼ばれたらしっかり返事をし、自分の言葉で語り、それぞれの役割を立派に果たしていました。



子どもたちの振り返りからは上級生たちの姿、特に5、6年合同のソーラン節の勇壮な姿に、「スポフェスの中でも一番すごかった!」と、憧れを抱いた子が多くいたことがわかりました。

子どもたちの思いを叶えてくださった 青木のまちの皆様

本年度のソーラン節は、学区の全町内会・自治会の皆様の御協力により、子どもたちは青木のまちの法被を着せていただいて演技をしました。これは、5年の子どもたちの「僕たちも例年の6年生のように、法被を着て踊りたい!」という願いを町内会・自治会の皆様が叶えてくださろうとお考えいただいたことで実現した、今年初の試みでした。

子どもたちの願いを学校側がキャッチしたのが9月下旬でしたので、本年度に実現させることは難しいのではないかと考えていましたが、町内会長、自治会長の皆様に御相談したところ、「子どもたちのためなら!」と御快諾をいただき、実現の運びとなりました。PTCA様にも、法被のメンテナンスの面から御協力をいただきました。

青木のまちの一員である自覚と誇りをもって

法被を一人ひとりに渡した日には、大事そうに両手で法被を持って廊下を歩く5、6年の姿がありました。スポフェス前日の練習でも、子どもたちはうれしそうに法被を着て演技をしていました。

そして当日、子どもたちが誇らしげに色とりどりの法被姿で入場する様子を見ていて心が熱くなりました。単に格好よく見せるための衣装なのではなく、「青木のまちを背負わせていただいて演技する」という意識が、子どもたちの気高い姿を生み出し、懸命な演技につながったのだと思います。青木のまちの皆様を支えていただいているということ、そして自分がまちの一員であることを、演技する子どもたちも、それを見ている下級生たちも、実感できたスポフェスになったのではないのでしょうか。

全町内会、自治会の法被が校庭に吹く青木の風にたなびく様子は、圧巻の一言でした。本校、そして青木の子どもたちがまちの皆様にあされ、支えていただいていることを実感できたスポーツフェスティバルとしていただきました。地域の皆様、保護者の皆様に深く感謝申し上げます。

11月もどうぞよろしくお願い申し上げます。